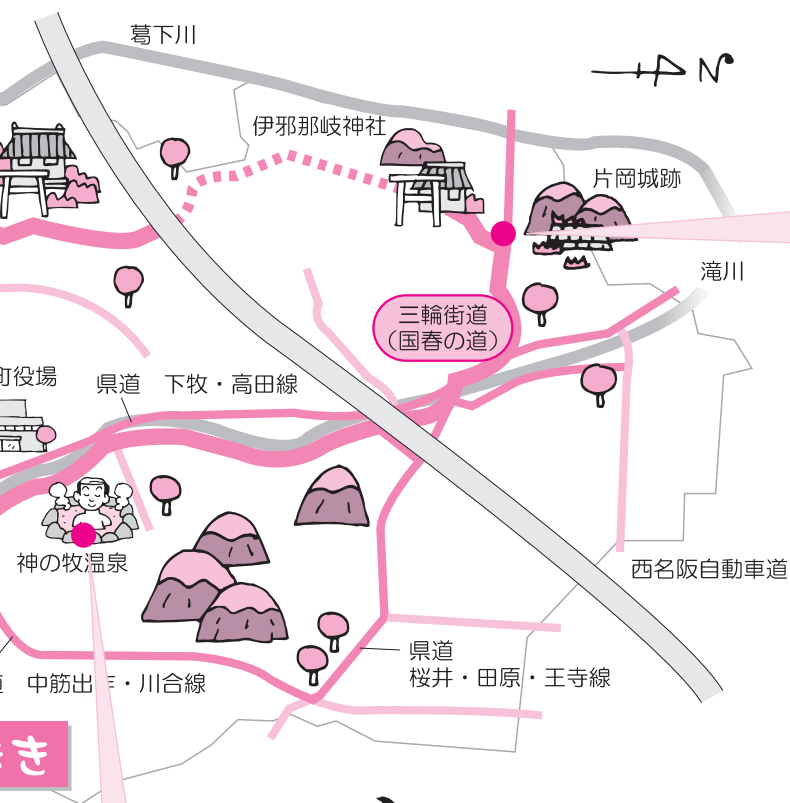


「上牧」の呼び名の起こりは、この地一帯がゆるやかな丘陵に抱かれて、放牧に適したところから出ていることは「日本書紀」や「続日本書紀」によってうかがわれ、上の牧、下の牧があったとの口碑が残っています。

明治4年の廃藩置県で奈良県に属した上牧村、下牧村、中筋出作は明治22年の町村制実施により合併して上牧村となりました。その後、昭和47年12月、奈良県18番目の町として上牧町が誕生しました。



かんまきちょう
(写真提供:上牧町)

城の巻

片岡城跡

片岡城跡は、南北に延びた馬見丘陵の最北端、下牧集落の背後にあり、河内から明神山の北を越え、田原本に至る古道に面し、俗に「城山」といわれるところがあります。

城山の西の片岡谷一帯が中世の興福寺一乗院領の諸荘園であり、下牧集落の東を流れる滝川一帯には牧山上荘下荘が展開していました。これらの荘園を本拠に成長した国人片岡氏が片岡城を築きました。片岡氏は後に河内から大和に勢力を伸ばしてきた松永久秀によって滅ぼされました。松永久秀は信貴山日本城を築き、片岡を支城としてこの地を治めましたが、天正5年(1577)織田信長の命により明智光秀や筒井順慶らに滅ぼされ、今は城跡だけが残っています。



伊邪那岐神社

伊邪那岐命を主神に春日、八幡、住吉、稲荷の神を祀っています。もとは五社神社といい東田口にありましたが、疫病が流行したので静寂の地をもとめ、現在地に移したといわれています。

また、室町の末期に片岡新助がここに城を築き、春日、八幡の両神を守護神として祀ったという伝承があります。



水の巻

貴船神社

智照寺山にあり、祭神は、罔像女命(春日)、保食神(稲荷)、素盞鳴命(八坂)、別雷神(加茂)を祀り、智照神社の奥の宮といわれています。社殿は神明造りで、もとは上牧小学校の奉安殿であったのを移建しました。この近くに葦田池があったと伝えられ、地形上から延喜式内の古社「深溝神社」ではないかといわれています。

大和・神の牧温泉

文化センターの南の高台にある大和・神の牧温泉。民間の入浴施設が開業し、泉質や施設の充実などから人気を呼び、他府県からも入浴客が訪れる、上牧の新しい観光スポットとなっています。



古の巻

浄安寺

上牧町南端の丘陵の上にあり、境内から西方には葛下川が流れ、はるか二上、葛城、金剛の山々が見渡せます。本尊は、木造阿彌陀如来坐像で、両脇に木造観音・勢至両菩薩坐像を従えた阿彌陀三尊像。境内には西国三十三カ所観音傍岡霊場があり、桜の名所でもあります。また、梵鐘は正徳元年6月に建立されたもので、その音色のすばらしさから、戦時中の物資抛出のときも難を逃れました。

上牧銅鐸

江戸時代に南上牧の観音山から出土したこの銅鐸がにわかには脚光を浴びたのは平成8年のこと。島根県の岩倉遺跡から出土した銅鐸のひとつが上牧銅鐸とサイズや紋様が一致し、同じ鑄型で造られた兄弟銅鐸であることが確認されたのです。兄弟銅鐸の出土は数例しかなく、弥生時代における出雲と近畿の関係や製造地、流通、用途など謎に包まれた銅鐸の真実に迫る貴重な出土品として注目されています。現在、静岡市の天満宮で所蔵され、上牧町中央公民館ではレプリカが公開されています。



薨の巻

庚申塚

五軒屋を少し離れた一本道沿いに、こんもりとした大木に守られるように青面金剛を奉った庚申塚が立っています。かつては各集落に庚申講があり、庚申塚を立てていましたが、現在では唯一この塚が残るだけです。



かんまき 笹ゆり回廊そぞろ歩

上牧町役場

〒639-0293 奈良県北葛城郡上牧町3350番地
TEL. 0745-75-1001
<http://www1.ocn.ne.jp/~kanmaki/>

笹ゆり姫物語 上牧町を舞台とした「かんまき伝説 片岡城笹ゆり姫物語」があります。

あらすじ

戦国の世、片岡城の一人娘佐葦姫と木辻城の嫡男景頼との恋物語。貴船神社での出会い、浄安院での再会により、互いに惹かれあう二人。松永勢との戦により、地蔵峠で行方不明になった景頼。最愛の君をなくした佐葦姫であったが、悲しみを忘れようと浄安院で寂光門跡とともに生活し、郷の人達とともに働き、常に明るく振るまい、人々の心を和ませる佐葦姫に、多くの人が心を寄せ、また、景頼との思い出の笹ゆりを慈しむその姿に「笹ゆり姫」と慕われた。

その後、行方不明になった景頼の無事の知らせとともに、感動の再会。そして、めでたく二人の婚儀が執り行われ、小百合という姫も産声をあげるも再度の松永勢との戦で、とうとう景頼は討死してしまう。

季節はめぐり、上の牧に笹ゆりの咲く頃、片岡城城山に、景頼と佐葦姫と一緒に見つけようと約束した幸せを運んでくれるといわれる“紅い笹ゆり”が咲いていた。

幻の“紅い笹ゆり”を探しに上牧町笹ゆり回廊そぞろ歩きへおいでください。